

今月の  
いいね!

## 海の中のおヒメさま



ヒメ

【名前】

ヒメ（ヒメ目ヒメ科）

【すむ場所】

新潟県・茨城県から九州まで。  
水深 100～200mの砂泥底。

【大きさ】

全長 20cm ほどになる

【当館で見られる場所】

駿河湾の生きもの

【特ちょう】

体は細長くスラっとして、赤いもようが美しい魚。オスのしりびれには黄色の横帯があるが、メスにはない。

【担当学芸員から一言】

この仲間は分類が難しく学名が変わることがありましたが、今は *Hime japonica* です。直訳すると「日本の姫」という素敵な名前が付けられています。水槽内ではピョコピョコと背びれを上げ下げする愛らしい様子を見ることができます。(K.Y)

### Q&A

## 疑問にお答えします：水族館の水

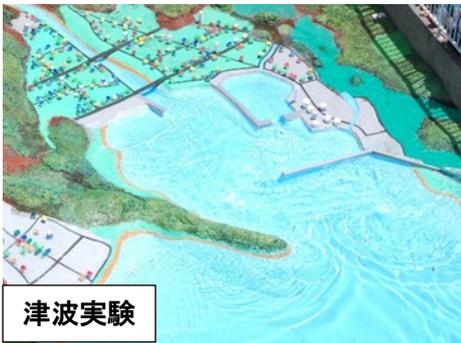
Q.水族館の水ってどこから来るの？

水族館で海の生き物を飼育するためには、大量の海水が必要になります。当館では、海水を得るために井戸を掘ってそこから地下水をくみ上げて使用しています。しかし、水族館ごとに方法は異なり、きれいな海が近い水族館では直接海からくみ上げて使用している館もあります。また、海から離れた内陸の水族館では、タンクローリーで海水を運んで来たり、淡水に人工海水を溶かして使用したりしています。このように水族館では、様々な方法で飼育に必要な海水を確保しています。(Y.I)

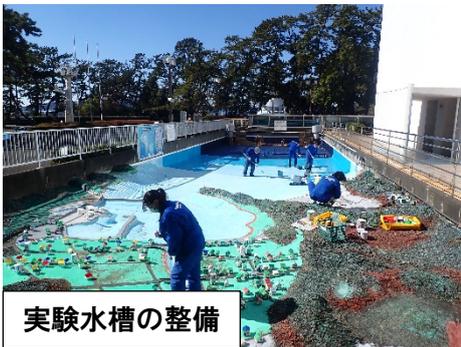


井戸からくみ上げた地下水

## 津波実験水槽



津波実験



実験水槽の整備

当館の屋外展示に津波実験水槽があります。湾のつくりや地形を50分の1に縮め、実際に地震の後に起こる現象を再現して津波実験をご覧いただいています。

多くの津波は、海底の地震によって発生します。地震により海底が大きくへこんだり、逆に持ち上げられたりすると、津波が起こります。海底がへこんだ場合には、同時に海面も下がります。そこから元に戻ろうとする水の動きにより潮が引き、続いて大きな津波が押し寄せます。また、海底が急に持ち上がった場合には、海水も同時に持ち上げられるので、大きな津波が突然押し寄せます。実験水槽では、海底に設置した大きな金属の箱を急に持ち上げたり、沈めたりして実際と同じメカニズムで津波を再現しています。

この水槽は屋外にあるため塗装も劣化しやすく、実験で水が陸地に被るため家屋模型も傷みます。そのために定期的なメンテナンスが必要で、塗料の塗り直しや陸上の整備を行います。水槽の大量の水を抜き、古い塗料を洗い流してから新しく塗り直します。また、陸上部分も地面や道路、橋模型を塗り、さらに新しい家屋模型を取り付けます。

いつ大きな地震が起きて津波が発生するか分かりません。実験をご覧いただき、身近な人ともしもの時にどのように行動するか、しっかりと話合う機会になれば幸いです。(S.T)

## 増えろ、ミズクラゲ！ —ちょっと変わった増やし方—

クラゲと言うと、海の中をプカプカただよっている姿を思い浮かべるかもしれません。しかし、ミズクラゲの一生の間には、水の中をただよって生活する他に、イソギンチャクのように物に張り付いて付着生活するポリプと呼ばれる時期があります。このポリプは、水温が15℃を下回ってくると体がくびれはじめストロビラと呼ばれる姿になります。その後、くびれの一つ一つが分裂（ストロビレーション）し、エフィラと呼ばれるクラゲの赤ちゃんになります。そして、成長が進むと皆さんの思い浮かべるクラゲの姿になります。水族館では、一年を通してミズクラゲを展示するため、冷却器を使ってポリプのいる水槽の水温を下げることで分裂させてクラゲを育てています。しかし、なかには水温を下げてでも分裂しないこともありました。そこで、インドメタシンという物質が分裂を引き起こさせるという情報を得たため、市販のインドメタシン入りの薬を使ってストロビレーションするか試してみることにしました（Kuniyoshi et al. 2012）。なお、インドメタシンは、いたみ止めの効果のある物質で、ぬり薬などに用いられています。その薬を、ポリプのいる水槽に入れてみたところ、1週間ほどでくびれが見られ始め、約2週間でエフィラを得ることができました。はじめは半信半疑でしたが、試してみると想像していたよりも順調にストロビレーションしたことに驚きました。(Y.I)



ポリプへの投薬



ミズクラゲとそのストロビラ

※生物の状況により展示を急遽中止する場合があります。予めご了承ください。